

平成30年度老人保健健康増進等事業

認知症グループホームにおけるケアの効果・評価に関する調査研究事業

公益社団法人日本認知症グループホーム協会

1. 事業目的

本調査は平成29年度調査の追跡調査を実施し、入居者のQOLやBPSDの状況について、より長期的な評価・分析を行うとともに、BPSDの改善にどのようなグループホームケアが有効であったかについてのより具体的かつ客観的な調査を実施し、効果的なグループホームケアについて更なる検証を行うことを目的として実施した。また、グループホームの地域貢献度を測る尺度についても検討した。

2. 事業結果の概要

1) 地域貢献尺度・地域交流尺度の開発

地域貢献尺度（事業所評価）、地域交流尺度（入居者評価）を作成し、これらの評価者間信頼性と構成概念妥当性を検討する予備調査を41事業所で実施した結果、各尺度とも概ね良好な結果を得た。そして、これらを本調査に加えた。

2) 1年後追跡調査

平成29年度新規入居者群(n=78)のNPI-NH平均値は、1か月後調査10.41±13.71、1年後調査10.79±10.80であった。NPI-D平均値は、1か月後調査4.64±5.76、1年後調査4.87±4.81であった。QOL-D短縮版平均値は、1か月後調査28.94±4.94、1年後調査29.04±3.79であった。いずれも11か月間で有意な変化は見られなかった。バーセル・インデックスは、1年前76.42±19.68、今回71.36±20.47で有意な低下が見られた(P=0.020)。平成29年度既存入居者群(n=366)のNPI-NH平均値は、初回調査10.52±12.93、1年後調査9.33±11.77、NPI-D平均値は、初回調査4.38±5.48、1年後調査3.89±5.16でいずれも有意差はなかった。QOL-D短縮版平均値は、初回調査28.74±4.91、1年後調査28.03±5.10で有意な低下がみられた(P=0.012)。バーセル・インデックスは、1年前69.97±23.65、今回63.04±25.32で有意な低下が見られた(P<0.001)。全体として、1年後にBPSDやQOLに大きな変化はなく症状が安定しているが、ADLは少し低下する結果が示された。

3) ケア効果調査

平成30年度新規入居者群と既存入居者群の合計(n=72)においてNPI-NH平均値は、初回調査21.43±15.66、1か月後調査16.54±16.13で有意な低減が見られた(P=0.001)。NPI-D平均値は、初回調査9.67±7.07、1か月後調査7.46±6.80で有意な低減が見られた(P=0.004)。QOL-D短縮版平均値は、初回調査26.86±5.53、1か月後調査27.71±5.64で有意な向上が見られた(P=0.044)。バーセル・インデックスは、初回調査65.90±21.84、1か月後調査67.36±21.71で有意な変化はみられなかった(P=0.227)。グループホーム入居者においては、入居や発症から1か月でBPSDやQOLにおいて改善を示す結果が得られた。

4) 薬剤

1年後追跡調査群444例で調査した。過半数がポリファーマシー(5~6剤以上)であった。認知症治療薬は、認知症高齢者自立度IVでもコリンエステラーゼ阻害薬が66名中の23名35%で使われており、適切な使用について検討の余地があることが示された。抗精神病薬は、NPI-NHが5点以下のBPSDがごく軽度の216名の中でも28名13.0%に投与されており、落ち着いたら減量・中止が望まれる。